



学校だより ながや

令和6年 2月 29日
横浜市立永谷小学校
校長 神田 敏之

「みなさん、ピンクじゃんけんに参加して、ピンクシャツデーを盛り上げましょう！」

児童支援専任教諭 武蔵野 裕貴

2月22日、中休みにNIBK（永谷いじめ防止会）のメンバーが「ピンクじゃんけん」という遊びを企画しました。上の言葉は、運営しているNIBKの6年生の代表児童が放送で全校に呼びかけた時の言葉です。楽しそうに呼びかけてくれたこともあって、多くの子どもたちが集まって、ピンクじゃんけんを楽しんでいる様子が見られました。ピンクじゃんけんというのは、NIBKの児童たちが2月28日に世界的に実施されているいじめ反対の啓発イベントの「ピンクシャツデー」を盛り上げるために発案したゲームです。



ピンクじゃんけん

「ピンクシャツデー」の由来は、カナダのとある男子生徒がピンク色のポロシャツを着て登校してきたことをきっかけにホモセクシャルだとからかわれ暴行を受け帰宅したことから始まります。そのことを知った上級生の別の男子2人は、「もういじめなんてうんざりだ！」と言って、いじめに反対する意思を表示するためにピンクのシャツやタンクトップを75枚ほど購入し、クラスメートたちに「明日、一緒にピンクのシャツをきて登校しよう」と呼びかけました。結果、多くの人たちがその呼びかけに賛同し、数百人の生徒たちがピンク色のものを身につけて登校しました。生徒たちが自らの意思で「いじめをなくしたい」と考え、行動を起こしたエピソードはたちまち世界に広がり、生徒たちがピンクのシャツを着て登校した2月28日を「ピンクシャツデー」と名付け、ピンクの物を身につけ、いじめ反対の意思を掲げる日とすることにしました。

このエピソードを聞いてNIBKの子どもたちが企画したのが、ピンクじゃんけんです。ルールはいたって簡単で、NIBKの子たちにじゃんけんが勝ったらピンク色のカードがもらえるというものです。カードには、子どもたちが考えたピンクシャツデーマスコットキャラクターの「ピンチーくん」が描かれています。そして、じゃんけんに10回勝利すると、うでに巻き付けることの出来るピンクリボンがもらえるそうです。



ピンチーくん

このピンクじゃんけんは永谷小学校では、私の知っている限り初めての取り組みです。そもそもピンクシャツデーのために子どもたちが取り組みを考えたこと自体、初めてのことも知れませんが、前例のない中で、新しいことを始めることは決して簡単ではありません。NIBKは有志の子どもたちによる団体なので、子どもたち自身によって自治的な運営されております。そういった環境で自分たちの考えたアクションが起こせたことはとても素晴らしいことだと感じます。その気持ちの起こり自体は、ピンクシャツの声かけを始めたカナダの学生たちとそう大して変わりがないのかもしれませんが。



引継ぎをするNIBKの児童

さて、先ほどご紹介した「ピンチーくん」ですが、実は4年生の児童が考えました。今までは6年生が中心となって活動することが多かったNIBKですが、その6年生たちは3月で卒業をします。この4年生は、自分たちが卒業した後もNIBKを存続させたいと考えたNIBKの6年生が4・5年生学年全員に声をかけた結果集まった児童の一人です。「永谷小のいじめを一つでも多く減らしたい」。一年前に立てた一部の子どもたちの思いがこの先も引き継がれていき、大きな流れとなることで、子どもたちにとってより安心安全な過ごしやすい学校になっていくことをこれかも切に願い、応援していきたいと考えております。



今年度は子どもたちの様子についてホームページも活用してお知らせします。月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。